「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
（当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください）

	平成 27 年　10 月 5　日
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏　名	田島夏子

１．派遣国・場所（○○国、○○地域）

新潟県妙高市

２．研究課題名（○○の調査、および○○での実験）

笹ヶ峰実習無雪期

３．派遣期間（本邦出発から帰国まで）

平成 27 年 10　月 1　日　～　平成 27 年 10 月 4　日　（4　日間）

４．主な受入機関及び受入研究者（○○大学○○研究所、○○博士／○○動物園、キュレーター、○○氏）

笹ヶ峰ヒュッテ

５．所期の目的の遂行状況及び成果（研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）

写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

今回の実習は、標高 1300m の新潟県妙高市にある京大笹ヶ峰ヒュッテにおいて、高原の植生や生物を観察し、標高 2462m の火打山に登山や、ロープワーク、ビバーク講習を通して、山でのサバイバル技術を学ぶことが目的であった。
日程は以下の様である。
10 月 1 日　笹ヶ峰着　ヒュッテ周辺散策
10 月 2 日　ヒュッテ周辺散策
10 月 3 日　火打山登山
10 月 4 日　ロープワーク講習、ビバーク講習

1 日目は、笹ヶ峰ヒュッテに到着した後、ヒュッテ周辺を散策した。周辺には、ノブドウや、サルナシ、ミツバアケビなど、食用となる果実がたくさんなっており、みんなでたくさん収穫をした。探しているうちにみんな目が肥えてきて、これらの植物の葉をすぐに発見し藪をかき分け入り込み、かなり高いところの実まで協力して頑張って収穫するなど、講師の先生方もびっくりするような野生児ぶりを発揮していた。熟しているものはとてもおいしく、みんなで食べながらさらにたくさん生っているところを探して歩くのは非常に楽しかった。ヒュッテに帰ってきた後は、収穫したノブドウを枝から外し、夕食のパエリアをつくった。

2 日目は、ヒュッテ近くにある笹ヶ峰牧場周辺を散策した。途中で栃の実やナラのどんぐり、ブナの実、ヤドリギの実、様々なキノコ、昆虫、ニホンザルなどを観察、採集しながら歩いた。紅葉が始まったばかりの山々を眺め、涼しい風に吹かれながら様々な生物を観察しながら歩く雨上がりの散策道はとても心地よく、楽しかった。午後は自由時間となり、夕食後に、地図の読み方と翌日の火打山登山の計画を立て、登山計画を立てる際の注意点を学んだ。地図の読み方は、小学生の時に学んだ以来であったので、忘れていることも多く、とてもためになった。また、等高線の数から各地点間の標高差を推定し、距離も考慮して大まかな所要時間を計算することは、これから多く実践しようと思った。そこから、たとえ頂上に到達していなくても、引き返すべき時間をあらかじめ決めておくことが大事であるというお話をエベレストに登った山本さんから聞くと、とても身に染みた。

3 日目は火打山に登った。朝 4 時半に起床し、6 時にヒュッテを出発した。登山道から登り始め、黒沢、富士見平、ヒュッテで休憩しながら登った。途中途中で地図を確認し、自分の現在位置を把握しながら進んだが、実際の地点と地図上の場所を照らし合わせるのはなかなか難しかった。地図上から、各地点間の標高差を理解していると、斜面がきつそうな区間を予測することができるため、上りやすかった。
各地点をほぼ予定通りに進み、頂上に着いたのは 12 時近くであった。全員が無事に登頂することができて良かった。下りは、登りよりも楽かと思ったが、そんなことはなく、かなり体力を消耗した。前半グループがヒュッテに帰ってきたのは 5 時、後半グループが帰ってきたのは 5 時 40 分であった。

4 日目はまずロープワーク講習を行った。２本のロープを簡単にはほどけないように結ぶ、本結び、fisherman's knot や、支点に結びつけるための８ノット、クロブヒッチ、落下時にはストッパーとなり、登る際は結び目を移動させられるクルージック、オートブロックなどの方法を学んだ。

ただ結び目がほどけなければいいという訳ではなくほどきたい時にはすぐにほどくことができる結び方もあるということが驚きだった。ほどけないことが逆に危険につながる場合もあるのだと学んだ。
大人の全体重がかかってもしっかりとした結び方をすれば、ほどけないことがわかったので、今回はあまり実践の時間がなかったので、自分でまた結び方を復習してみたいと思う。
ビバーク講習は、ツェルトと呼ばれる簡易テントのようなものを使って防寒をし、野宿する方法を学んだ。ツェルトは、この他にも、けが人や雪を運んだり、荷物を包んだりと、様々な用途に応用ができる。テントというよりは薄いナイロン製の布で、シンプルなものが一番役に立つと教わった。また、サバイバルとは、あきらめないこと、想像力、冷静さ、が必要であることを学んだ。

世界各地の山を登ってきた方々からのお話を聞きながらの登山はとても有意義であった。地図の読み方やロープワークなど、日常でも役に立つ知識を学ぶことができて良かった。また、降雪期に訪れることが楽しみである。

採集した野生ブドウを枝から外してジュースにする

ヒュッテ周辺を散策

火打山登山道

頂上からの眺め

ロープワーク

ビバーク実習のツェルト

６．その他（特記事項など）

京大笹ヶ峰ヒュッテでの生活全般でお世話になった、杉山さんに心から感謝いたします。様々な知識を教えてくださった山本さん、幸島先生、松沢先生に深く感謝いたします。また、私たちの実習をサポートしてくださった滝澤さんに感謝の意を表します。最後に、この実習を支援してくださった、PWS プログラム関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。